

阿 蔵 自 治 区  
保 存 版

みんなで楽しく未来をつくらう!



# しもやまスマイルプラン

あなたの行動が「しもやま」を変える!



# WE LOVE しもやま

2021.4 - 2026.3

## まちづくりに大切な2つのこと

### 1 『WE LOVE しもやま』

～下山への愛情と誇りを高める合言葉～  
下山には、たくさんのLOVEがあふれています。  
下山への想いを、みんなで形にしていましょ!

### 2 みんなで楽しく 未来をつくらう(共働)

住民が中心となって行う活動、行政が取り組む事業、  
事業者が地域のために行うこと、  
みんなで一緒に取り組むこと。  
同じ方向を見て、**共働**で楽しく活動しましょう!



新しくなった  
「WE LOVE しもやま」のロゴマーク

周りにある18の円は11分野と  
7つの自治区を表しています。

## しもやまスマイルプランって何?

しもやまスマイルプランは、「下山の10年後の将来像」を見据えて、「まちづくりの方向性」を定め、事業を実施するための「具体的な取組」をまとめた、みんなが行動するための計画です。  
取組の内容は、11の分野と7つの自治区で、それぞれ検討しました。

まちづくりの方向性(10年間)

具体的な取組(5年間)

後期の取組

10年後の  
将来像

## 下山の10年後の将来像

# 子どもの声が聞こえ、 笑顔で暮らせるまち しもやま



## みんながめざす下山のまちづくりの方向性

### 下山に関わる人を増やして活力あるまちづくり

- 「定住人口」を減らさない取組にチャレンジします。
- 観光客などの「交流人口」と住民との交流の機会を積極的につくります。
- 地域活動への参加者の増加をめざして、「関係人口」を増やします。

### 住民主体の地域活動で持続可能なまちづくり

- 住民一人ひとりが地域の運営を考え、住民による自治活動を次代に引き継ぎます。
- まちづくりに関する地域内の団体が、そのあり方や活動内容を見直し、より適正な運営に努めます。
- 自治区と地域の関係団体、行政との連携を強化して、地域活動を活性化させます。

### 「安心感」と「わくわく感」が実感できるまちづくり

- 子どもからお年寄りまで、誰もが安心して生活できる環境をつくります。
- 下山を盛り上げるために「やってみたい」ことを実現できるように、みんなで応援する機運を醸成します。
- 下山地域外からの来訪者が、親しみやすく、楽しめる環境づくりを行います。

## 具体的な取組

阿蔵自治区の取組は、  
裏面をご覧ください。

発行	下山地域まちづくり推進協議会	2021年3月
問合せ	電話	0565-90-2111(事務局下山支所)
	FAX	0565-90-3344
	メール	shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp



# 阿蔵 自治区プラン

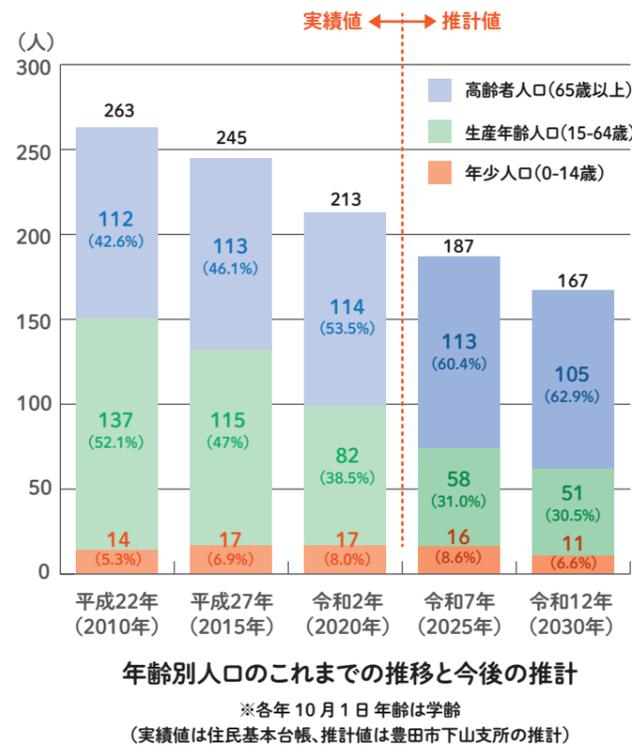
## ① 阿蔵自治区の現状

### 人口の減少、特に子どもや若い人の減少

- 令和2年の人口は213人であり、この10年間で50人減少しています。65歳以上の高齢者人口はほぼ横ばい、14歳以下の年少人口は少し減っていますが、15歳から64歳の生産年齢人口は大きく減少しています。
- この傾向が今後も続くと、令和12年の人口は167人とさらに減少し、特に生産年齢人口がさらに半数程度に減少、高齢化率は62.9%になると予想されます。

### 人口減少と高齢化が地域に及ぼす影響

- 住民の減少と高齢化に伴い、自治区や組の運営などの担い手不足、農地の荒廃、空き家の増加、移動の不便さや買い物の困難さなどが心配されています。
- 子どもの人数が少なく、子どもを見守る人や場所も少なくなることが懸念されます。



## ② 阿蔵自治区の10年後の将来像

- ▼ 組の合併やお役の見直しを行いながら、地域の活動が適正な規模で実施されています。
- ▼ 様々な活動グループや「かえで」の運営も続いており、住民同士のつながりが続いています。
- ▼ 念仏踊りなどの地域の文化が次世代に引き継がれて継続されています。
- ▼ 空き地や遊休農地、空き家は住民の協力により活用され、新しい住民に提供されています。
- ▼ 農地や山林は、住民同士が協力したり、地区外の人や企業に協力してもらったりするなどにより守っています。
- ▼ 阿蔵での地区の情報が取りまとめられ、阿蔵への転入者や転入を希望している人に情報が提供できる状態になっています。

## ③ 阿蔵自治区の5年間の取組

### 取組1 4つの組を合併する(阿蔵・宇連野・高野・梨野を1つの組にする)

阿蔵自治区では、各組ともに人口減少・高齢化が激しく、組の役員の担い手が少なくなっているため、組の運営が既に難しくなっています。このため、将来的に4つの組を合併し、阿蔵自治区を1つの組として運営していきます。なお、組の合併にあわせて、役員、神社や祭礼、共有財産の今後のあり方についても検討し、次の世代に引き継いでいきます。

また、長期的には、他の自治区との合併や連携についても検討していきます。

### 取組2 住民の繋がりを強化する(地域活動の継続)

阿蔵自治区では、地域の活動を通じた住民同士の繋がりができています。人口が減少するなかでも、産直のかえでや念仏踊り、三番叟など、現在行われている地域活動を継続します。こうした活動を通じて、大人から子どもまで幅広い年代が接することにより、地域への愛着を高めて、より強い住民の繋がりを作ります。

### 取組3 関係人口・移住者を増やす(空き地・空き家活用、受入態勢づくり)

阿蔵自治区を持続させていくためには、子どもが住み続けたり U ターンで戻ってきたりするだけでなく、新しい住民を受入れていくことが必要です。このためには空き家・空き地を活用・提供することから、空き家を把握したり、各家で将来の土地や住宅について考えたりしていきます。あわせて、阿蔵の暮らしについての情報が提供できる状態になっており、移住者や関係人口を地域で受け入れるための体制づくりを行います。

